

米国最大のワイヤレス展示会「CTIA Wireless 2005」開催

# 写真や動画サービスに沸く 米国の最新ケータイが一堂に集結

海部 美知 エノテック・コンサルティング代表

3月14日から16日にかけて、ニューオーリンズで米国最大の無線通信業界展示会「CTIA Wireless 2005」が開催された。今年のテーマは「情報家電と無線の融合」。基調講演の会場やステージを大きな家と庭に見立てて、その中に無線情報家電のコンセプト展示を行うといった「ワイヤレス・ホーム」としての演出がなされていた。米国では日韓や欧州と比べ、3Gの展開は遅れているが、昨年CDMA陣営ではEV-DOの、GSM陣営ではW-CDMAのサービスが開始され、ようやくこうした無線情報家電のコンセプトに興味を持たれるようになってきた。ただ、中味はCESで見たことのあるような情報家電が大半で、コントロール部分に無線が使われるだけであまり新味はなかった。



## データやコンテンツ、 キャリアの大型合併に注目

初日の基調講演はコンテンツ関連で、コダックのCEOダン・カープ氏が登場。カメラ付きケータイが米国でも広く普及したが、ケータイで写真を撮った人のうち60%はめったにコンピュータに取り込むことをせず、70%は誰にも送ったことがない(同社調査による)という事実から、「写真の加工や印刷が簡単にならないと、カメラ付きケータイは長期的にはニッチに沈み込んでしまう」と警鐘を鳴らした。そして、Wi-Fi機能搭載小型カメラや、カメラ付きケータイをはめ込むドックのあるプリンターなど、ワンタッチで操作できる新製品を披露して注目を集めた。

次に登場したESPN(スポーツ専門チャンネル)・ABCスポーツ社長のジョージ・ボーデンハイマー氏は、MVNO(リセラー)方式で提供予定の「ESPNモバイル」を紹介。スポーツ好きな米国人のパッションに訴えるブランド戦略は、日韓や欧

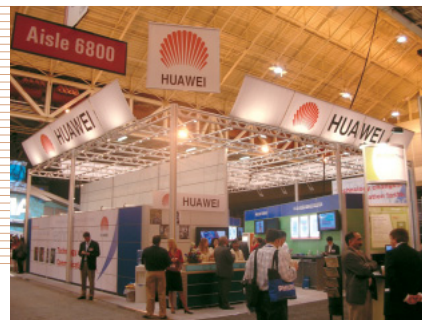
州の後追いになりがちな携帯業界の中、米国的で新鮮に見えた。

2日目はベンダーの回。サムスン・アメリカ社長のユン・ハン・キム氏は、音楽や映像が携帯に統合される「コンバージェンス」をテーマにしたビデオを披露したが、聴衆に一番インパクトがあったのは夢物語の部分より「7メガピクセル(700万画素)のカメラ携帯を発売する用意がある」という発言だったようで、このあとのワークショップなどでも「7メガピクセル」があちこちで言及されていた。

これに続き、サイベースCEOのジョン・チェンは、企業でのモバイル利用が、初期の「セールス・フォース・オートメーション(SFA)」から第二期の「ビジネス・アプリのモバイル化」、そして第三期の「ビジネスモデルの変化」へと進化していると指摘。またインフラ主要メーカー4社(ルーセント、アルカテル・ノースアメリカ、エリクソン、ノーテル)のパネルディスカッションでは、3Gの今後の展開への期待やデータ・セキュリティの重要性について語られた。



5大キャリアCEOによるパネルディスカッションの様子



注目の中国企業、ファウエイのブース

3日目は毎年恒例のキャリア(電話事業者)のパネルディスカッション。今年はベライゾンが欠席し、AT&Tワイヤレスがシングルに買収されて、席が2つ減った。毎年、他のCEO達を鋭くやっつける辛口がおもしろかったネクステルのディム・ドナヒュー氏は、昨年末に発表されたスプリントとの合併を控え、舌鋒の矛先を収めてしまった。大型買収の続く厳しい現実の中でCEO達は、新しいサービスの重要性も口にしながら、顧客サービスの改善や料金体系のシンプル化、他社との差別化などの当たり前の努力をすることでARPU(顧客当たり月額平均売り上げ)やMOU(顧客当たり月間使用分数)が増加しているという点を指摘した。そして、M&Aの進展が消費者にとってマイナスにはならないと口をそろえて強調していた。

### 米国でも写真メールが本格普及、動画サービスも好調

実際の展示フロアで中心的なテーマだったのは写真と画像系サービスであるが、今年は「動画」が注目を集めた。併設の「モバイル・エンターテインメント・フォーラム」では、スプリントのプレゼンテーションで、昨年から提供されているケータイ向けテレビ番組「スプリントTV(MobiTV)」が予想を上回る実績を上げているという発言があり、急成長途上にあるモバイルコンテンツ分野の明るい霧

困気をさらに盛り上げた。

より現実的なレベルでは、この展示会に合わせて、シングルとベライゾンの最大手2社間のMMS(画像メール)相互接続が実現したと発表された。最大手同士がつながったため、このあと他社も続いてくると見られる。

### 端末分野での韓国メーカーの勢いと中国勢の登場

一方、展示フロアでは、例年どおり韓国の端末メーカー、サムスンとLGが、大きなブースで最先端の端末を展示。急速にシェアを伸ばしつつあるLGは、これまでの折り畳み一辺倒から、スライド式やQWERTYキーボードの付いたメール端末、GSM対応機、EV-DO対応デュアル端末など多彩な新モデルを数多く発表し、勢いのよさを見せつけた。先行するサムスンも、EDGE(米国などで使用されている第3世代データ転送技術)対応端末や2メガピクセルカメラ電話、米国初のディクテーション(音声で話した内容をテキストに落とす機能)端末など、先進的技術を搭載した端末を並べた。

これに対し、トップの座を脅かされつつあるノキアは、本格的な折りたたみ式端末がようやく登場。韓国勢ではもはや珍しくもないビデオ対応やメガピクセルカメラ端末に加え、横に開くとキーボードが現れるスマートフォンやVoWLAN対応デュアル端末なども展示されていた。

しかし、液晶の画質で劣るノキアは、家電化の進む主流中位機で韓国勢にますます差を開けられている。

今回は、中国のトップメーカー、フアウェイがかなりの規模のブースで端末や無線システムを展示していた。また米国に本拠があるが、中国人が経営し、中国圏に強いベンダーUTスターコムは、中堅端末メーカーのオーディオボックスを買収し、統合ブランドの端末を展示していた。米国の携帯電話キャリアは、中国からの安価な端末の調達に強い興味を持っており、今後米国にも中国旋風が押し寄せてきそうな兆候が見られた。

### 技術革新で日韓・欧州の後追いを続ける米国市場の停滞感

米国の携帯業界は好調を維持しており、今年のCTIAも盛況であった一方、大型の新技术がまだ見えてきていない。昨年業界の話題を集めたWiMAX(無線ブロードバンド)もトーンダウンし、RFIDやZigBee、無線情報家電なども、キャリアを中心とするこの展示会ではいま1つ興味が盛り上がらない。コンテンツ、端末、アプリなどの面では、米国はすっかり「日韓・欧州の後追い」の立場が定着してしまっているが、キャリアの大型合併で消耗戦が一段落して新しいものが生まれてくるのか、それとも寡占化によりますます停滞が続くのか。にぎやかな中に、少々不安も漂う展示会であった。



LGの「F910」。GSM/GPRS対応、スライド式のQWERTYキーボード付きメール端末になる。



サムスンの「P777」。EDGE対応、メガピクセルカメラ、60分ビデオの録画が可能。



ノキア「6155」。CDMA/アナログ対応、メガピクセルカメラ、FMラジオ内蔵。2005年第4四半期発売予定。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)